

授業科目名	環境保健医学Ⅰ (公衆衛生学)	担当教員	准教授 久松 隆史 (他 日程表に記載)
開講年次・学期	3年後期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	68時間(Ⅰ・Ⅱ合計)
授業概要			
地域における疾病予防と健康増進を目指した地域保健・医療活動ができるようになるために、社会における健康課題とその成因・背景を、疫学を基礎として理解する。また、ライフサイクルに沿った健康課題に対して、根拠に基づく予防対策を身につける。保健医療政策により社会における疾病予防を理解する。公衆衛生学の理解により、社会や生活と医学・医療の橋渡しができることを目標とする。			
G I O (一般目標)			
1. 疫学・保健統計を理解し、集団における健康課題の把握について学習する。 2. ライフサイクルに沿った健康課題に対して、予防対策の展開を理解する。 3. 保健医療政策・制度の学習により、社会における疾病予防を理解する。			
S B O (行動目標)			
1. 公衆衛生学がどのような学問か説明できる。 2. 疫学の重要性、疫学手法の種類と特徴、疫学の応用を理解する。 3. 保健統計を理解し、わが国の健康課題を説明できる。 4. 母子保健の仕組みと母子保健サービスについて説明できる。 5. 小児保健の概念と日本・海外における取り組みを概説できる。 6. 学校保健の制度と学校保健教育および保健管理について説明できる。 7. 主な生活習慣病の動向、その発生要因、予防方法を概説できる。 8. 国や地方の保健医療行政における健康課題に対する取り組みについて説明できる。 9. 国際保健に関する理解を深め、国際保健医療協力について概説できる。 10. 災害時の保健医療体制と現状について理解する。 11. グループダイナミクスを通し、チーム医療の重要性を理解する。			
成績評価の方法			
授業への出席状況および本試験を総合的に勘案して評価する。			
教科書・参考書・視聴覚・その他の教材			
【教科書】 特に定めない 【参考図書】 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会 赤澤宏平他監修：公衆衛生がみえる、メディックメディア 小山洋他編：シンプル衛生公衆衛生学、南山堂 JM Last編：疫学辞典、日本公衆衛生協会 KJ Rothman：Modern Epidemiology third Edition, Lippincott Williams & Wilkins, 2008 RB Wallace：Public Health and Preventive Medicine Fifteenth Edition, Prentice-Hall International Inc. 2007			
コア・カリとの関連			
B(1) 社会・環境と健康、B(2) 地域医療 B(3) 疫学と予防方法、B(4) 生活習慣と疾病 B(5) 保健、医療、福祉と介護の制度			